

府中市市民協働・共創促進事業

第三者評価シート

評価結論

A

事業名称	中高生世代の居場所提供事業
事業実施者	Youth Action for Fuchu/府中市子ども家庭部児童青少年課
事業目的	府中市における中高生世代の第三の居場所として、安心して過ごし自分らしくいられる環境を提供すること
事業内容	毎週火曜日(祝日・年末年始等を除く)17:30～20:30 に住吉文化センターにて開館し、スタッフ・サポーター計 4 名が常駐して、ボードゲームや自習など自由な過ごし方を支援。
事業目標	ボードゲームや学習支援などの自由な活動を通して社会的な繋がりを生み、自己肯定感を高めるとともに、地域の人々や同世代との関わりを通じて社会とのつながりや学習習慣を育み、将来の自立につなげる。
制度名	テーマ型 市民協働・共創促進事業

1 評価結論	A
	若者主体で実施され、市の課題にも沿った意義の高い取組であり、市との連携や既存資源の活用も適切に行われている。 一方で参加者数の更なる増加を期待したい。 総じて一定の効果は認められるが、集客や費用面の改善が求められる事業である。
	若者対象で意義のある事業である。 また、若者主体で事業が実施されており、事業者(若者)に対しての経験提供という観点でも良い試みであると考えられる。 参加者にとって安心できる環境かの判断は難しいが、まずはスタートとして事業を実施したという点は評価できる。 今後は、集客と費用面が課題である。
3 協働の視点について	今回の取組は計 39 回と回数を重ねる中で、市とも一定の連携が図られており、場所や資源についても市内の既存のものを有効に活用できていた。 運営面では、利用者が将来的にスタッフとして関わるような「良い循環(グッドサイクル)」が構築されることが望ましい。また、広報面では市側としてもう一步踏み込んだ支援の在り方を検討する必要がある。 また、団体が有していた柔軟性を活かし、状況に応じた対応ができていた。 今後の協働の継続・発展も期待できる内容であった。

【評価結論】 S・・・現時点で期待以上の成果 A・・・現時点で期待通りの成果 B・・・一部課題が残る
C・・・多く課題が残る

第3号様式

府中市市民協働・共創促進事業 第三者評価シート

評価結論

B

事業名称	府中ソーシャルキッズラボ(子ども主体・社会貢献体験プログラム)
事業実施者	CHEERS 株式会社/府中市市民協働推進部協働共創推進課
事業目的	子どもが社会貢献活動や社会課題に触れ、自分ごととして考え行動する体験の機会を提供することで、主体性や協働意識を育み、将来的な社会貢献活動の担い手の育成につなげることを目的とする。
事業内容	社会貢献活動(ごみ拾い)の体験
事業目標	子どもが社会貢献活動をすることで、社会貢献への主体性や協働意識を育むこと。
制度名	テーマ型 市民協働・共創促進事業

1 評価結論	B
	社会貢献活動の機会提供として一定の意義はあるが、内容が一部限定的であるように見受けられ、事業目的との整合性に課題があると考え。集客や広報をはじめ、事業設計の段階から実施までに、もう少し活動内容を煮詰められると更に良い活動ができたと思う。総じて効果は一部認められるが、改善すべき課題も多く、今後に期待したいものである。
2 事業について	本事業においては、社会貢献活動として「ごみ拾い」を実施している点について、取り組みやすさという利点はあるものの、事業の目的や課題設定に対して、中学生やそれ以下の年代も視野に入れた、より多様な発想を取り入れ、内容面の充実を図ることが必要である。集客面も課題であり、元々の関心が低い層にどのように情報を届けるかという視点が弱く、ターゲットに応じた広報戦略の見直しが必要である。
3 協働の視点について	継続性が課題であり、将来的な発展や定着のイメージを着想している段階であると思われる。課題のゴールイメージを更に具体的に頂き、「どのような状態を目指すのか」が関係者や参加者に十分に共有して頂けると更にいい事業につながると考える。 事業者については、企業としてのフットワークの軽さや柔軟な対応力といった強みが発揮されていた点は評価できるが、その強みを十分に活かすための企画力や展開力には改善の余地がある。

	活動内容の検討にあたっては、事前に「どのような活動であれば参加したいか」といったニーズ調査をし、対象者の関心や実態に即した設計とすべきである。
--	---

【評価結論】

S・・・現時点で期待以上の成果 A・・・現時点で期待通りの成果 B・・・一部課題が残る
C・・・多く課題が残る

第3号様式

府中市市民協働・共創促進事業 第三者評価シート

評価結論

A

事業名称	平和都市宣言 40 周年に向けた周知啓発の企画・提案
事業実施者	特定非営利活動法人アーティスト・コレクティブ・フチュウ(ACF)/府中市市民協働推進部多様性社会推進課
事業目的	平和都市宣言 40 周年という節目にあたり、これまで平和事業との関わりが少なかった市民にも、平和について考えてもらう機会を作る。
事業内容	平和都市宣言 40 周年ロゴ制作、ロゴを用いた缶バッジ、ポスター、その他広報物制作、ロゴを印刷したフリップにその人が思う平和を書き入れてもらうヒアリング企画の実施、オリジナル缶バッジ制作ワークショップの実施、ヒアリングの様子を撮影した広報動画を制作
事業目標	ロゴを使用して多くの市民に平和都市宣言を周知すること。
制度名	テーマ型 市民協働・共創促進事業

1 評価結論	A
	ロゴや動画など成果物の質が高く、周知啓発として一定の効果が認められる。 一方で予算の妥当性や課題設定、今後の活用方針に改善の余地がある。 総じて成果は十分あるが、更なる発展が期待される事業である。

2 事業について	事業者主導で平和都市宣言についての事業の口火を切ることができた点や、成果物を今年度他部署の事業でも利用できる点は評価でき、周年事業や宣言アピールとしても妥当である。ロゴなどの成果物や動画内容も評価できるが、今後の利活用方法の整理が課題であるとする。
3 協働の視点について	予算面については、予算枠内での運営ではあるが、市との協働の中で少々節約した運用もできたのではないかと考えられる。一方で、さまざまな場面で活用できる点は協働の趣旨に合致しており、成果も評価できる。 市の課題設定が曖昧であり、具体性があればさらなる効果を望めた。周囲を巻き込むなど、さらなる広がりを持たせることも検討する必要がある。

【評価結論】 S・・・現時点で期待以上の成果 A・・・現時点で期待通りの成果 B・・・一部課題が残る
C・・・多く課題が残る

第3号様式

府中市市民協働・共創促進事業 第三者評価シート

評価結論

B

事業名称	府中市 特殊詐欺体験会
事業実施者	株式会社 NTT DX パートナー/府中市生活環境部地域安全対策課
事業目的	特殊詐欺被害の増加防止に向け、市民が特殊詐欺の危険性を実感し、かつ、犯人の手口や対策について理解を深めることで、自身の財産を守る力を身に付ける。
事業内容	特殊詐欺体験会の実施
事業目標	体験会に参加し、特殊詐欺とその防止方法についての理解を深める
制度名	テーマ型 市民協働・共創促進事業

1 評価結論	B
--------	---

	重要なテーマに対し一定の効果は認められるものの、手法の有効性や波及効果に課題がある。 参加者数や対象設定、他手法との比較検討については、計画から実施まで時間が限られていたが、もう少々市とすり合わせを行う必要があったと考えられる。 総じて一定の成果はあるが、本事業目的に到達するために、今後も継続的に改善し実施を頂きたい事業である。
2 事業について	本事業は、限られた対象者に重点的にアプローチし、そこから周囲へ波及させることを狙いとしており、その意図自体は達成されている。 一方で対象をどの程度絞り込むべきか(リスクの高い層への重点的なアプローチ、支援を必要としているにもかかわらず参加していない層へのアプローチ等)については、今後の検討する必要がある。 また、活動の重要性は高いが、現在の手法が最適であるか、また十分な効果が得られているかについては疑問が残る。
3 協働の視点について	民間ノウハウを活用したことは評価できる。一方で限られた予算の中で、事前に費用対効果の見定めや、価格設定の確認、手法の有効性については検討の余地があったものとも考えられる。既存内容と類似しているところや、参加人数も更なる増加を期待したく、今後も市と協働の上、改善・実施を期待したい。

【評価結論】 S・・・現時点で期待以上の成果 A・・・現時点で期待通りの成果 B・・・一部課題が残る
C・・・多く課題が残る